

領域別正答率 学校別公表

和泉市教委

学校序列化否定できます

交渉の主な追及点と市教委の回答

1. 『全国学力・学習状況調査』の結果公表方法についての泉北教組要請書(5月)に対し、当方が入手した和泉市教委案を示すまで、一切の回答が無かったことは不誠実ではないか。

和泉市教委

「8月4日の校長会を受けて、6日に提示するつもりであった。14日の教育委員会定例会の議案発送(7日)の直前になったことは申し訳ない。今後、こういうことが無いようにしたい。」

2. 市教委の難形の形式で学校が結果を公表すれば、領域別の正答率を合計または平均することにより、市内全小中学校の序列化は可能となるのではないか。

和泉市教委

「保護者の理解を得て協力してもらうために、各校の領域別正答率を示すものであり、平均正答率の公表には当たらない。序列化につながるおそれは否定できるものではないが、領域別の正答率の合計・平均では正確な正答率は算出できないと考えている。」

3. 実施要項には『学校や地域の実情に応じて、個別の学校や地域の結果を公表しないなど、必要な配慮を行うこと。』とある。学校や地域の実情により、校長の判断で、領域別正答率を掲載しないことは可能ではないのか。

和泉市教委

「14日の教育委員会定例会で『和泉市教育委員会として、各学校それぞれが、領域別の正答率を含めた結果公表を行うよう指示する。』と決定した。教育委員会としては、事前にすべての校長とのヒアリング等により調整しており、単学級の学校には配慮している。該当する学校以外の校長には、決定通り公表するよう指導・指示する。」

冒頭、泉北教組がこの間、結果公表について市教委に再三問い合わせていたにもかかわらず、当方が入手した和泉市教委案を示すまで、一切の回答が無かったことについて、追求すると、市教委は「直前になったことは申し訳ない。今後、こういうことが無いようにしたい」と組合への提示が遅すぎたことを謝罪しました。

今回の交渉の大きなポイントである市教委の示す形式では、市内全小中学校の序列化が可能となるのでは

ないか、という点について、市教委は、序列化することが目的ではないとしながらも、「序列化につながるおそれは否定できるものではない」と回答しました。

『全国学力・学習状況調査』の実施要項には、調査結果の取扱いに関する配慮事項として、「序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要です。」と明記されています。また、和泉市教委も

昨年3月の市議会でも「学校の平均点が予測されることとで、まるで、教育活動全に対しての評価であるようにとらえられる点、それによる序列化、地域格差等につながる懸念されることにより、学校別の公表は控えたい」と答弁しています。にもかかわらず、和泉市教委が、序列化につながる可能性のあることを認めたと上で、各校の領域別正答率を数値で公表すると決めたことは大問題です。

今回の交渉で、単学級の学校は、数値による公表はしないよう配慮することがわかりました。しかし、市教委は単学級以外の理由は配慮の対象としない方向です。さらに「最終判断の決定権は、校長と市教委のどちらにあるのか」という泉北教組の追及に対して、市教委は明確に答えられず答弁不能となりました。このことは、市教委は指導・指示はするが、最終判断の決定はできないことを市教委自身が示したものだといえます。

最終判断の決定権がどちらにあるか答えられず

序列化は中止せよ

今回の結果公表により学校の序列化が進めば、平均点をあげるのが至上命題となり、過去問対策が強調されるなど、本来の学力とはかけ離れた指導がまかり通る事態になりかねません。また、地域や自校を愛する心や自尊心にマイナスの影響を与えることも考えられます。

全日本教職員組合(全教)が行ったアンケート調査でも「全国一斉学力テストの日に休む子がいる」「うちの子の点数が悪くてすみません」と謝る保護者がいるなど、子どもたちや保護者を追い詰めている実態も報告されています。

泉北教組は、学校を序列化し、子どもたちをいつその競争に駆り立てる『全国学力・学習状況調査』の結果公表について、断固反対するものです。



子どもたちのために、最善の教育条件を確保しよう！

泉北教組への加入をうったえます。